

あ い さ つ

青 木 村

おはようございます。

本日、令和4年第4回青木村議会12月定例会を招集いたしましたところ、全議員の皆さんにご出席をいただき、誠にありがとうございます。日頃より皆さんには、村政の運営にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

今年は、7月以降の不安定な天候により、農作物の生育に影響がありましたが、台風など大型の自然災害が少ない年でした。

しかし、3年目となる新型コロナウイルス感染症の拡大は第8波へと長期化し、今年はさらに、ウクライナ情勢や円安の進行にともなう原材料、食料、エネルギーなどの価格高騰、世界的な異常気象等々、社会経済状況に深刻な影響が生じ、村民の皆さんにとりましても村行政といたしましても、大変な一年となりました。

10月15日(土)、野田元首相が衆院本会議で行った安倍元首相の追悼演説に、私は大変感銘を受けました。国会内でも党派を越えて称賛の声が相次いだとのことです。

野田氏は安倍元首相に対し「歴史の法廷に永遠に立ち続けなければならない運命(さだめ)だ」また「放った強烈な光も、その先に伸びた影も、議場に集う議員と共に言葉の限りを尽くして問い続けたい」と語りかけ、「政治家の握るマイクには、人々の暮らしや命がかかっている」そして「暴力にひるまず、臆さず、街頭に立つ勇気を持ち続けよう」と与野党議員に呼びかけました。

心に残る演説でした。

新型コロナウイルスにつきましては、11月14日から全県に医療非常事態宣言が発出されており、上田圏域の感染警戒レベルは、11月4日からレベル5の状態が続いています。

病床使用率は、12月6日時点で70%を超えるなど過去最大値となり、医療のひっ迫状況が続いています。

このように、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかからない状況の中、青木村では、オミクロン株対応型ワクチンの集団接種を10月下旬から開始し11月までに計7日間実施し、全国的には、オミクロン株対応ワクチン接種率が伸び

悩んでいる中、4回目、5回目の接種対象者の約86%、2,200人の方に接種を受けていただきました。

今後は、引続き青木診療所での個別接種を実施してまいります。

これから人の移動が多くなる年末年始にかけて、新型コロナウイルスのさらなる感染拡大と、季節性インフルエンザとの同時流行も懸念されております。

三密の回避等の基本的な感染防止対策の徹底、コロナワクチンの接種と併せて、インフルエンザのワクチン接種についても、接種を検討していただけるようお願いしてまいります。

また、第7波の感染拡大が始まった8月以降、村では抗原検査キットを購入し、感染拡大防止のため、感染の心配がある村民の方に対して配布を行っておりますが、今後も、十分な感染防止対策を行ってまいります。

次に、国の地方創生臨時交付金を活用した村独自のコロナ対策事業の実施状況については、電気・ガスなどのエネルギー、食料品などの物価高騰等の影響を受けている方や事業者に対して、緊急的かつ重点的に支援をする、地方創生臨時交付金の重点支援交付金が創設されました。これに対応して、村が追加して支援を行う事業について、10月21日に開催されました議会全員協議会において詳細を説明させていただき、取組の内容が、緊急的、重点的に行う事業であることから、同日付で、専決にて補正予算を編成させていただきました。11月末現在、17事業、予算総額1億7,856万円となっております。

専決の承認をお願いしている案件で、今回追加で支援を行っている事業の概要についてであります。

- ①生活応援券について、既に7月に村民に、また、住民税非課税世帯または住民税均等割のみ課税世帯、及びひとり親世帯の方には上乘せしてお配りしたところではありますが、生活用品、食料品の値上げが続いている現在の状況から、追加の支援として、全村民へ5,000円の地域消費券を11月末に送付いたしました。
- ②農業を営む皆さんへは、高騰する農業用の生産資材などに対して、20万円を限度として、生産資材購入費用の20%を支援させていただくことといたしました。
- ③商工業者の皆さんへは、事業所の規模や売上高の減少率により、10万円から20万円の支援を実施しております。
- ④温泉施設を運営する事業者の皆さんには、高騰する灯油購入の補助として、10万円または、20万円の支援をしているところでございます。

コロナ対策、コロナとの共存にあわせて、エネルギー・物価高騰等、暮らしに直結する厳しい状況ですが、引き続き、迅速に、平等に、そしてきめこまやかに

対応を進めてまいります。

農作物について、作柄は全般的にほぼ平年並みを確保しました。

米につきましては、8月以降の日照不足等の影響を受け、長野県東信の作況指数は97のやや不良となりました。

りんごにつきましては、心配された着色の遅れが10月下旬からの低温により回復し、ほぼ順調に推移しました。りんごの木オーナー制度でも、品質・量両面においてほぼ契約数量・品質を確保でき、今年是好評でした。

タチアカネにつきましては、増産に向け生産者にご苦勞いただきましたが、播種直後の7月下旬の降雨、8月以降の日照不足等により、やや不良となりました。味は例年に増して美味しいと、大法寺で開催された第3回新そば奉納祭でも好評で、村内のそば屋さんは新そばを求める来客で賑わいました。

今年の松茸は、例年よりやや豊作でした。道の駅あおきは大盛況で、報道で何回も取り上げられるなど、「松茸なら青木村」が定着しました。松茸のスライスが入った「まつたけ酒」を道の駅で販売したところ、大変好評であります。

11月24日(木)付内閣府発表の月例経済報告では、『景気は、緩やかに持ち直している。』としております。

さて、予算編成の時期となりました。

国の令和5年度予算は、「経済財政運営と改革の基本方針 2022」及び「経済財政運営と改革の基本方針 2021」に基づき、経済・財政一体改革を着実に推進する、ただし、重要な政策の選択肢をせばめることがあってはならない、としております。

年金・医療等については、前年度当初予算額に高齢化等に伴ういわゆる自然増として5,600億円を加算した額の範囲内において、要求する、地方交付税交付金等については、「新経済・財政再生計画」との整合性に留意しつつ、要求をする、新型コロナウイルス感染症対策、原油価格・物価高騰対策等を含めた重要政策については、必要に応じて、「重要政策推進枠」や事項のみの要求も含め、適切に要求・要望を行う、としております。

次に県の令和5年度当初予算編成方針ですが、現状として、財源不足額の拡大が危惧されています。

県内経済はコロナ禍からの持ち直しの動きが続く一方で、物価高騰や海外経済

などの様々なリスク要因もあり、県税収入の動向が定かでないこと、高齢化等による社会保障関係費の増加や防災・減災対策の強化等に伴う県債残高の増加により財政構造がより一層硬直化すること、新型コロナウイルス感染症対策の見直しを踏まえた国の予算措置や地方財政対策の動向によっては、厳しい財政運営を強いられることが懸念されます。

村ではこれから、来年度の予算編成作業に入るわけですが、コロナ禍の影響を受け大変厳しい中での作業になります。

令和5年度は第6次長期振興計画前期基本計画の2年目であり、「笑顔あふれる村づくり」計画の実現に全力で取り組んでまいります。来年度も今年度に引き続きコロナ禍の影響で、各種税金、使用料などの猶予申請もさらに増えることが予想されることから、歳入の落ち込みは避けられないと予想されます。最優先は新型コロナウイルス感染症対策と、この痛みを受けた、また受けるであろう村民の皆さんへ公平・平等な対策を行うこととあります。

このような中、創意と工夫で最大の効果が得られるよう職員の英知を結集して、元気で豊かな村づくり、日本一住みたい村づくりに取り組んでまいります。

いずれにいたしましても厳しい財政状況の中ではありますが、村民の皆さんが将来に夢を持てる先々を見通した施策を、スピード感を持って、年々増える社会保障への対応を図りながら、単に金額だけでなく内容が充実した予算編成を行ってまいります。

これらの現状を踏まえて、来年度当初予算への計上を予定し、その需要に対応してまいりたいと考えております。

次に、先の9月定例会閉会后本日までのおもな行政等の報告をさせていただきます。

9月15日(木)、「高齢者祝賀事業による訪問」を行いました。

米寿35名、白寿4名、百歳2名、101歳1名、102歳2名、104歳1名、109歳1名の方々がご長寿のお祝いの日を迎えられました。これからもお元気でお過ごしいただきたいと思っております。

9月17日(土)、コロナ禍の中でしたが、小学校の運動会が行われました。

昨年度同様、保護者の参加を限定する中で、工夫された種目で実施されました。5・6年が連合で演じた旗を使った表現や義民太鼓が見事で、今年も運動会ができた喜びを感じることができました。

9月22日(木)、23日(金)に、中学校のこまゆみ祭が行われました。

コロナ禍が続く中で、ステージバックの作品を全校生徒が制作するなど、みんなで盛り上げていこうとするねらいが随所に見られ、すばらしいこまゆみ祭を行うことができました。

今年も、中学3年生を中心に行われた義民太鼓の熱演が見事で、青木中学校の伝統がしっかり引き継がれていました。

9月30日(金)、「県事業における用地交渉等の共同実施協定」を県と締結しました。

県の道路事業などの用地交渉等を、村民の皆さんとの距離が近い役場職員も協働して行うことで、円滑な合意形成を図ります。

10月1日(土)、保育園の運動会が行われました。

感染防止に努めながら、内容を精選して行われました。年長さんが中心になって活躍しており、子どもたちの成長の様子が分かりました。

10月11日(火)、阿部知事が来村し、「県民対話集会」が青木村文化会館で開催されました。

テーマは『国道143号青木バイパス整備促進を活用した村づくり』で、参加された村民の皆さんそれぞれの立場で早期完成への期待を述べられ、知事からは「完成年度は、今申し上げられないが、皆さまの思いを重く受け止め推進したい」とのまとめの発言がありました。

10月9日(日)のとうきゅうの日、五島慶太未来創造館で「五島慶太翁肖像画除幕式」を行いました。

五島美術館より無償貸与されたもので、期限を設けずに展示されます。

10月20日(木)には、東急株式会社の高橋社長にご来館いただき、「TOKYU百年絵巻(全21巻)贈呈式」を行いました。

今後は、東急グループ内でご活用いただきます。

10月19日(水)、20日(木)には、小学校の6年生が、3年ぶりに東京へ修学旅行に行ってきました。五島慶太未来創造館を舞台にして、東急との交流が年々深く

なっていますが、そのご縁で、東急の野本会長さんや、高橋社長さんが、わざわざ出向いてくださり、挨拶や記念写真を、一緒に撮っていただきました。また、社長室の皆さまには丁寧に渋谷を案内していただき、予定より1時間も長く見学を行うなど、手厚い歓迎を受けて帰ってきました。

子どもたちは、直接お礼状を書くなどしており、交流がますます盛んになってきています。

10月28日(金)から30日(日)には、青木村総合文化祭が行われました。

今年は、様々な団体に発表をご案内したところ、15団体もの発表が行われました。コロナ禍ではありますが、皆さんそれぞれが工夫して練習をされており、発表の機会がとてもうれしいとお話されていました。

また、見に来てくださる方も、例年よりも人数が多く、改めて、公民館活動や生涯学習の大切さを確認できました。太極拳や手話ダンスなどの発表を見て、応募してくる方が増えたというお話もお聞きしています。

11月10日(木)、タチアカネ蕎麦の収穫を祝い、生産者や製麺業者の皆さんなど関係者が出席し、大法寺で「タチアカネ新そば奉納祭」が行われ、さらなる収穫豊穰と疫病退散を祈願しました。

播種時の降雨などの影響もありましたが、70haで約30tの収穫がありました。

11月19日(土)には、信濃教育会が中心になって、「信州教育の日」が、青木村文化会館で行われました。

青木村の保小中一貫教育やインクルーシブ教育、中学校の文化祭での義民太鼓の紹介、通学合宿を振り返った座談会がインターネットで配信され、現在でも、ユーチューブで、誰でもみることができるようになっています。青木村の取組を全国に発信していただくことができました。

11月24日(木)から29日(火)まで、村内全12地区の要望を現地で確認させていただきました。

今年は台風による被害はありませんでしたが、道路関係101か所、河川関係57か所や、防犯灯等と合わせて計277か所のご要望をいただきました。

11月28日(月)、今年もまた商工会青年部により「ふるさと公園あおき」に、色とりどりのイルミネーションが点灯されました。

年々華やかになっていく飾り付けは、青木村の冬の風物詩となっています。

11月30日(水)、「青木村保育園未満児保育室増築工事竣工式」を行いました。

近年増え続ける未満児入所に対応するため、未満児保育室の増築を行い、安心して過ごせる環境を整えました。小さな園児の皆さんが広い教室でのびのびと遊ぶ姿を見て、仕事冥利に尽きる思いでした。

さて、12月も中旬となり心忙しい時期となりました。今年の村の主なできごとを振り返ってみたいと思います。

1月より、(株)竹内製作所青木工場の周辺整備が始まりました。

村の産業拡大、雇用確保、移住促進など地域活性化を目的として、岡石工業地に竹内製作所青木工場の建築が進められております。工業地へのアクセス向上や歩行者の安全確保を図るため、国道143号に右折帯や信号機を設置する工事、村道の2車線化工事を行うとともに、国道及び村道に歩道を整備しています。

1月26日(水)～29日(土)のコロナワクチン集団接種に併せて、会場で「マイナンバーカードの出張申請サポート」を行いました。

青木村のマイナンバーカード交付率は55%と大きく上昇しました。

3月26日(土)、「新生青木村65周年記念式典」を挙げていたしました。

浦里村当郷地区と合併してから65年となりました。大きく変わりつつある青木村の、さらなる飛躍を誓いました。

4月1日(金)、「青木村太陽光発電設備の適正な設置及び維持管理に関する条例」が施行されました。

災害防止や良好な自然環境等の保全の観点から、規制の強度を高めるとともに、住民の意向をより反映できる手続にするため、新たに条例を制定したものです。

5月13日(金)、「ラジコン草刈機を活用したスマート農業実演会」を実施しました。

高齢化や担い手不足などにより課題がある山間部の畦畔の草刈りに対応するため、新たにラジコン草刈機を購入しました。

以上、まだまだコロナ禍は続いておりますが、様々な行事を、感染防止に努めな

から実施することができ、参加された多くの人達に喜びや感動を感じてもらうことができました。

次に、今議会に上程しました令和4年度12月補正予算の概要について申し上げます。

令和4年10月専決補正予算（令和4年10月21日付専決処分）の概要について
一般会計第3号専決補正予算は、歳入歳出それぞれ5,934万8千円を追加し総額を32億1,787万9千円とします。

緊急に対応を必要としたため、専決させていただきました。

令和4年10月専決補正予算における一般会計の主な事業は次のとおりです。

歳入

番号	目	説明	計上額
①	総務費国庫補助金	地方創生臨時交付金（重点支援分）の増額補正	2,754万8千円増
②	民生費国庫補助金	子育て世帯等臨時特別支援事業費の増額補正	2,550万円増
③	民生費県補助金	生活困窮世帯緊急支援事業費の増額補正	630万円増

歳出

番号	目	節	説明	計上額
①	地方創生臨時交付金事業費	報償費	生活応援券配布事業Ⅱ（重点支援分）に係る費用を計上	1,985万円増
		工事請負費	快適安全保育環境改善事業 青木保育園未満児保育室増築工事費の増額補正	625万円増
		負担金補助及び交付金	農家、商工業者及び温泉施設運営事業者への事業継続応援支援事業	1,005万円増

②	生活困窮世帯緊急支援金	負担金補助及び交付金	生活困窮世帯緊急支援金 住民税所得割非課税世帯 @30,000 ×150 世帯	450 万円増
③	価格高騰緊急支援給付金	負担金補助及び交付金	価格高騰緊急支援給付金 住民税非課税世帯 @50,000×470 世帯	2,350 万円増
④	予備費		地方創生臨時交付金事業へ充当	560 万 2 千円減

令和4年12月補正予算の概要について

今議会で議決をお願いする一般会計 第4号補正予算は、歳入歳出それぞれ3,398万9千円を追加し、総額を32億5,186万8千円とします。

令和4年12月補正予算における一般会計の主な事業は次のとおりです。

歳入

番号	目	説明	計上額
①	総務使用料	通信サービス・放送サービス使用料、光ケーブル使用料	300 万円増
②	衛生費国庫負担金	新型コロナワクチン接種体制確保事業費国庫負担金	753 万 6 千円増
③	総務費国庫補助金	マイナンバーカード交付事務費補助金	221 万 7 千円増
④	民生費国庫補助金	介護保険事業費補助金・保育士等処遇改善臨時特例交付金	161 万 3 千円増
⑤	衛生費国庫補助金	新型コロナワクチン接種体制確保事業費国庫補助金	293 万 3 千円増
⑥	総務費委託金	県議会議員選挙委託金	206 万 8 千円増
⑦	一般寄附金	一般寄附金 2 件	119 万 9 千円増
⑧	繰越金	前年度繰越金	1,060 万 6 千円増

⑨	雑入	当郷地区道路改良工事に伴う情報 電話施設等移転補償費	240万円増
---	----	-------------------------------	--------

歳出

番号	目	節	説明	計上額
①	情報通信サービス事業費	委託料	当郷地区道路改良に伴う情報電話施設等移転委託料	447万9千円増
②	マイナンバーカード交付事務費	備品購入費	マイナンバーカード券面プリンター2機	218万円増
③	県議会議員選挙費		県議会議員選挙費	206万8千円増
④	社会福祉総務費	負担金補助及び交付金	社会福祉協議会負担金 (フードバンク事業拡大分)	20万円増
⑤	新型コロナウイルス予防接種事業費		4回目、5回目の接種事業に係る費用を計上 ・接種事業委託料 7,536千円 他	1,046万9千円増
⑥	林業振興費	委託料	松くい被害拡大防止事業	291万円増
⑦	中学校学校管理費	需用費	管理棟屋根防水修繕工事、オイルタンク修繕工事	117万2千円増
⑧	図書館費	工事請負費	駐車場造成工事	1,048万3千円

以上、補正予算の内容を説明させていただきました。

詳細につきましては、教育長並びに担当課長からご説明致しますので、ご審議の上、ご議決いただきますようお願い申し上げます。